

# 種田山頭火と雨

2020年6月11日(木)

校長 田沢 幸夫

6月は雨の季節ですが、気象庁は6月10日、近畿地方が梅雨入りしたとみられると発表しました。

日本は四季の変化が豊かで、梅雨もその変化のひとつです。山口県防府市出身の種田山頭火(1882-1940)は、自然の変化に身をまかせ、放浪の旅を続けた俳人で、昭和8年、51歳のときに次のような言葉を記しています。

山あれば山を観る  
雨の日は雨を聴く  
春夏秋冬  
あしたもよろし  
ゆふべもよろし (『草木塔』「山行水行」)

山が見えれば、その景色を味わう。雨の日には、雨の音を聴く。春、夏、秋、冬、それぞれの季節を受けとめ、朝もいい時であり、夕方もいい時である。このように彼は、天気の変化、季節の移り変わり、一日の時の流れを素直な心で受けとめています。テレビもなかった時代、雨の日に山頭火は、読書をして過ごしたようです。また、次のような句も詠んでいます。

うしろすがたのしぐれてゆくか (『草木塔』「鉢の子」)

雨ふるふるさとははだしであるく (『草木塔』「其中一人」)

さて、私たちの毎日を見てみると、いろいろな時があります。晴れの日もあり、雨の日もあります。寒い日もあれば、暑い日もあります。自分自身を見ても、体調のいい時と悪い時があり、気分のいい日もあれば、精神的に落ちこんでいる日もあります。また、家族から温かい言葉をかけられる時があれば、冷たい言葉に打たれる時もあります。

どんな日であっても、どんな時であっても、それは神様から与えられた大切な一日であり、大切な時です。今、自分が置かれている状況を受けとめ、雨の日も晴れの日も、今日一日がいい日になるように、神の祝福を祈ります。